



# 『月の満ち欠けカレンダー』 のご活用にあたって

小社で毎年お配りし、ご好評をいただいております『月の満ち欠けカレンダー』を活用した授業プランをお届け致します。今回掲載した授業プランは、小学校6年「月と太陽」、中学校3年「月の運動と見え方」の学習場面です。月の満ち欠けそのものは小学校4年の学習内容ですが、その他の学年での導入や授業の組み立てなどにも、必要に応じてこのカレンダーを弾力的にご活用下さい。

## 『月の満ち欠けカレンダー』を活用した授業プラン

- 小学校6年「月と太陽」(月の形とその変化) …………… p 2
- 中学校3年「地球と宇宙」(月の運動と見え方) …………… p 3, 4

月を観察する意欲を高めるために、「月の満ち欠けカレンダー」を使用して、単元の導入を行う。また、導入の授業は、夜、満月が観察できる時から始めるのが適当である。

月の1日の動きや見える時間、方角などを予想することを通して、児童が月を観察する視点を増やし、目的や問題を明確にもって観察ができるようにする。

カレンダーは、人数分、あるいはグループ分、用意するのが望ましい。学級の実態に合わせて全てを提示するか、一部を提示してもよい。観察を進めながら、どうしてカレンダーを作ることができるのか（月の形の変化が予想できるのか）考える。そのことによって、規則性があるから月齢カレンダーを作ることができることに気づく。また、月の入り、月の出の時刻も予想できるなど、月齢カレンダーから多くの情報を読み取り、授業に生かすことができる。

1 本時の目標

- 月の満ち欠けについての規則性や観察できる時間に興味をもち、月の観察への興味を深める。  
(自然事象への関心・意欲・態度)
- 月の観察についての方法を知る。(観察・実験の技能)

2 授業の流れ

学習活動	○主な発問・予想される児童の反応	◆留意点・支援
①自分の見たことのある月の形をワークシートにかく。	○あなたが見たことのある月の形をかきましょう。いくつかいてもかまいません。 ・三日月・半月・満月・新月 などを書く。	◆児童がかいた月を黒板に貼れるような紙の大きさにする。また、枚数も十分用意しておく。
②児童のかいた月の絵を黒板に貼り、満月から月の形が変化する順に並び替える。	○どのように月の形が変わっていくでしょうか。満月をスタートにして、黒板に貼った月の絵を並び替えてみましょう。 ・だんだん小さくなっていくのではないか。 ・どうやって変わっていくのか分からない。 ・満月の次は、見えなくなる(新月)のではないか。 ・左右の向きの違いは関係あるのか？	◆できれば、日中や夜間の学校の南・東・北・西側の絵図が記入されているワークシートにすると、月が見える時刻や見える位置が意識される。 ◆上弦、下弦なども意識して、黒板に貼る月の図を選ぶ。また、児童が考えない月の形もあるので、教師が用意しておく。
③「月の満ち欠けカレンダー」を提示して、形の変化を確認する。	○今夜見ることのできる月はどれですか。 ・満月 ○どのように月も形が変わっていくのか確認しましょう。 ・だんだん小さくなっていく。 ・小さくなった後は、また大きくなっていく。 ○カレンダーを見て気がついたこと、疑問、感想を考えましょう。 ・約1か月で満月から満月にもどる。 ・同じ形でも向きの逆の月がある。 ・今夜は、満月が見える。	◆「月の満ち欠けカレンダー」は、大日本図書のHPからPDFファイルがダウンロードできるので、カラーで児童数分、あるいはグループ分用意しておくことが望ましい。 ◆自分で考えた後、ペアやグループで話し合ってもよい。
④月の見える時間を考えるために、夜に見える月を予想する。 自分の経験をもとに、昼に見える月があることや、夜見える月の形、昼に見える月の形について話し合う。	○このカレンダーで、夜にしか見えない月に ○をつけてみましょう。 ・様々な反応が予想される。 ・また、昼に月が観察できないと考えたり、観察できる時間に規則性はないと考える児童がいる。	◆「満月は昼見えるか」「月は太陽のように東→南→西と動くのか」など、児童のつぶやきから話し合いの内容を決めてもよい。
⑤月を観察する方法を聞く。	○今夜から月を観察してみましょう。	◆月の観察方法を指導する。安全についてや時刻、方角、固定物などをかき入れて記録することを話す。



